

音鑑・冬の勉強会 2021 「よりよい授業を求めて」

2021年12月13日～28日
インターネット講習（オンデマンド動画配信）
（教員免許状更新講習 選択領域6時間認定）

毎年ご好評いただいている「音鑑・冬の勉強会」を、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に続きインターネット講習（オンデマンド動画配信）で行いました。

- プログラム：① 講 演「鑑賞の授業の進め方」
② 講 演「資質・能力の育成に向けた音楽科の授業づくりと学習評価」
③ 講 演「ユニバーサルデザインの視点で考える音楽科の授業」
④ 講 演「数字と科学から読む音楽」
⑤ 講 演「ロシア音楽の変遷 ～ムソルグスキー、チャイコフスキーからショスタコーヴィチ～」
⑥ シンポジウム「音楽鑑賞の授業づくり
～『どのように学ぶか』に視点をあてた指導と評価～」
- 講 師：藤沢 章彦（元国立音楽大学教授、当財団理事）全体講師①／志民 一成（文部科学省教科調査官）②
阪井 恵（明星大学教授）③／西原 稔（桐朋学園大学名誉教授）④／奥田 佳道（音楽評論家）⑤
シンポジウム：研究委員 ⑥：館 雅之（神奈川県横浜市立太尾小学校校長）、井上 奈々（東京都荒川区立尾久第六小学校主任教諭）、安部 文江（長野県小諸市立小諸東中学校教諭）

●講演「ロシア音楽の変遷」



▲2021年は、ストラヴィンスキー没後50年の年。ムソルグスキー、チャイコフスキーからショスタコーヴィチまで、ロシアの時代背景とともに、ヨーロッパや日本との関わりの中でロシア音楽についてお話いただきました。

●シンポジウム「音楽鑑賞の授業づくり」



▲「どのように学ぶか」に視点をあてながら、小中の連携の中で学習内容と学習活動について考え、さらに学習評価の具体的な方法など、授業改善に向けて意見交換しました。

【アンケートより】

- ・小、中学校の先生がそれぞれ実践を話されることで、校種による鑑賞指導のポイントや違いを比較でき、さらに、9年間の学びの系統性を考える意味でとてもためになるシンポジウムだった。
- ・具体例をお話しいただけて、新学習指導要領内容を再確認できました。
- ・ユニバーサルデザインのお話は、今までと全く異なる視点で自分の授業を振り返る機会になりました。
- ・ロシア音楽をヨーロッパやアメリカ、日本の音楽の歴史と並べてみることによって新たな発見ができた。
- ・数学と音楽の関係を、詳しく例を挙げてお話しいただいて、自身の音楽に対する視野が広がった。
- ・お話を聞き逃したところや考えたいところを何度も聞いたり、自分のペースで学べる良さがありませんでした。